

第4回「アクラスZOOM寺子屋」の感想(2020.8.9実施)

1	<p>とても居心地のいい場所をつくっていただきありがとうございました。荻野さんからはもちろんのこと、ワンセッションごとに出会う方たちから、いろいろ学ばせていただきました。こんなに学習者のことを思い、自分の人生に前向きに行動している日本語教師や日本語教育に携わる人たちがいるならば、私たちが連携することで、この国へ希望を持ってやってくる人々を幸せにできる方法はきっとある！と思えました。そのための小さな行動を仲間といっしょにやっていきたいと思います。</p>
2	<p>自分は何を楽しいと感じ何に幸せを感じるのかという問いに私は自由に生きることができることが幸せだという答えを出しました。この考えに良いも悪いもなく、また人それぞれ、幸せの定義があり、自身の価値観で判断せず、ありのままを受け入れる。とてもシンプルです。このありのままを受け入れる場面は様々な場面で訪れます。不安や心配を先に考えてしまったり深く考えすぎたり、ありのままを躊躇しない。シンプルに。そしてやってみる、なんとかなるから！最後はきっと、みんながありがたいの気持ちになると思いました。本日は参加できて感謝です。ありがとうございました。</p>
3	<p>あたたかい時間をありがとうございました。学ぶことの喜びは、まだ出会っていない他者や未知の自分自身と遭遇することから始まるものだと思えて感じたひとときでした。ことばの教育に携わる者として、さまざまな境界線を越えたところに身を置きながら、出会う全ての方々と共にWell-beingを深めてまいります。</p>
4	<p>日本語を教えているということに止まらず、学校の運営側から広く今の様子をご覧になっている方や荻野先生の個人的な体験をシェアできる経験をお持ちの方、いろんなことにも話がおよぶ会になりましたね。そのような広がりの中でもきちんと大筋の展開が骨子から外れずに進む素敵な学びのばだったなと私は感じました。</p> <p>「つながる」と違いに気づけて俯瞰ができる。その中で私はいきなりえらんだり、捨てたりまではできないけれど、今「ある」ものをそのまま捉え、そして、獲得したいこの先の変化とその気持ちを素直に手の中に認めていくことで進んでいけるのかなと(自分自身/クラス・プライベート、その他での学習の場/その外までを包括しての関わりも)改めて感じました。</p> <p>本日の場を作ってくださっている嶋田先生、レクチャーしてくださった荻野先生、マニラからサポートをしてくださった小川先生。そして、この同じ時間を共有してくださった皆さま、本当にありがとうございました。またの機械にお会いできますこと、楽しみにしております。</p>
5	<p>私が最初にwell-beingということばを意識したのは、父を介護している時でした。介護と言っても、自分が介護できるわけではなく、専門家にお任せしている状態でした。介護してくださっている方々に感謝しながらも、正直、その時はまだあまり実感を伴っていませんでした。しかし、父が亡くなり介護の専門家の方々への感謝の気持ちも強く持ったことも後押しして、介護の日本語教育でお役に立てることはないかという気持ちから、「介護の初任者研修」を受講しようと思い勉強を始めました。介護の考え方を知るにつけ、人間の尊厳などを考えるとともに、well-beingについても考えるようになりました。時期を同じくして、細川先生と、先生の論文やご著書についてお話をする機会をいただきました。その際にも、細川先生から日本語教育の目指すところとしてwell-beingのお話を伺いました。私は日々、「何のために日本語教育をしているのか」という問いかけを自分にしていました。この問いは、日本語教育への疑問といった観点から投げかけている問いではなく、日本語教育を行う自分自身の意義のような視点からの考えでした。その際によく考えたことが、well-beingでした。しかし、まだまだ言語化して説明するまでには至らず、問い続ける毎日です。そのような中、嶋田先生からのZoom寺子屋のご案内で、荻野先生をお招きするとのことでしたので、飛びつくように申し込みました。昨年客員教授としていらしていたトムソン先生から、実践コミュニティについて学び、荻野先生のお話はたくさん聞いておりました。とにかく、荻野先生にお会いしたかったのが本当に嬉しかったです。本日は、様々な方々とお話ができ、みなさんの多様な背景の元、いろいろな感じ方でwell-beingを捉えていることを感じました。人を知りたい、つながりたいと思う気持ちがあると、つながることができます。またつながりたいと思う気持ちは、well-beingを感じられる気持ちがあつてこそ育まれるのではないかと感じました。つながって何ができるかは、自分がwell-beingを感じていることなんですね。そのように感じました。日本語教育をしていて、日本語教育でwell-beingの実現をすることはどのようなことなのかが、まだよくわかっていません。ことばの教育がwell-beingにどう関わっていて、日本語教師として何ができるのか、まだ問いかけている途中ですが、自分のwell-beingを見つめることで、日本語教師としてできることも見えてくるかもしれないと力をいただいた機会となりました。荻野先生、参加者の皆さん、そして企画してくださった嶋田先生、本当にありがとうございました。</p>

6	<p>いい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。 地震・豪雨・猛暑・コロナ…家や家族を失うことなく、日々、ごく普通の生活が普通におくれていることが、本当に幸せだと感じます。 個人レッスンをしていると、学習者の愚痴の聞き役になることもあります。そこからNLPを学び心理学にも興味を持ちました。ご紹介いただきました本も、ぜひ読んでみたいと思います。</p> <p>「自分の脳をだましてでも、頭の中を常にポジティブに」を心がけています。 朝「暑い、うぜ〜」から始まって、夜「あれもできなかつた、これもできなかつた」で終わるよりも、朝「今日もいい1日が始まる」、夜「今日もいい1日だった」で終わるほうが幸せです。ノー天気な人ですが、幸せはとらえ方次第で、ある程度はコントロールできるように思っています。</p> <p>日本語教育×well being 「プラス（ポジティブ）を残して終わる」ことを心がけるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さなことでも、「できた」「わかった」「うれしい」と感じられることを作る。 ・ほめ言葉のヴァリエーションを増やす。 ・赤ペンで訂正しない（ブルーで訂正しています。安心、信頼の色なので） ・訂正の後は、何かほめる。 ・愚痴を聞く。答えは出さない。ただ聞く。 <p>できたり、できなかつたりしていますが、生徒さんが、リラックスした状態で、気軽に話せる教師でありたいです。 皆さんからいただくいい刺激と、振り返りの時間になったと思います。</p>
7	<p>「ワールド・カフェ」は対で話をすることによって、自分の考えを整理して、言語化することができました。1回目・2回目でNZの日本語教育を指標にして、自分に置かれている環境をもう一度振り返り、繋がりについて考えることができました。現在のオンラインでの授業や会議は、ネットワーク上で行われるので、縦の関係、横の関係が交錯する網目状のつながりなので、距離的には密にならず。関係性は密になるように思います。そして、3回目でwell-beingと日本語教育という深いテーマを初めてオンラインで出会った方と話すことができ、多くの学びがありました。コロナ禍で普通の日常を送れることがいかに幸せかも実感していますし、日々の生活の中にある幸せに感謝することも大切だと思いました。パワーをもらったり、あげたりする元気で健全な授業をしていきたいと改めて思いました。</p>
8	<p>胸の奥底に響くことばを荻野先生はじめ、ブレイクアウトでいっしょになった方からいただけて、最後は感極まってしまい、失礼いたしました。最後に言いたかったことは、2つあります。まず、あなたの幸福の4因子は何ですかと問いかけてもらうことで、自分と向き合うことができ、勇気ももらえました。また、日本語教育×「well-being」という課題を出していただくことで、深く、そして広く、新しい観点から考えるきっかけをいただきました。私は、これから、この「well-being」を、自分が今まさに「やってみよう」とワクワクしていること：演劇ワークショップ（コミュニケーションゲーム、インプロ、マイム、殺陣、朗読、劇遊び）への参加を通して考えてみたいと思っています。それから、その体験を、日本語教育にどのように活かせるのか、考えていきたいと思っています。今回は参加させていただき、ありがとうございました。</p>
9	<p>ワールドカフェ@ZOOM寺子屋がお開きとなったあとも高揚感がとまらず、もう10数年なかったものかもしれません。私の2017年のニュージーランド初めての旅は、まさに。「やってみよう」からはじまりました。そして今日、あらためてあの時行っておいて良かったと実感しました。</p> <p>実のところ、このような会は、若干コンプレックスがあり苦手でした。私の父が、このような「つながり」を主とした会の主宰者であったからです。いろいろな方と知り合うことができましたが、どうも気の利いた会話ができないので苦手意識が強くなっていました。</p> <p>今日も、若干恥ずかしい気持ちで参加させていただきました。しかし、最初からすぐお話に魅了されてしまい、メモもしっかり取らせていただきました。すべてに無駄がなくオーガナイズされた進行、そして充実した内容であり、キーワードを明確にとらえられたように思いました。</p> <p>「Well-being,」という単語をしりませんでした。 wellはいいとして、このbe動詞 ing形 は進行していることを意味しているのかななどと思いつつ、調べて「幸福」とあったので、なんとなく納得していましたが、Happinessとの違いもご説明いただき言葉の重みがよく理解できました。かまえることなく、ありのままに。安全策をとり引くのではなく、やってみよう。感謝のことばを伝える心と、なんとかなるといふ前向きな姿勢。セッションをとおして、ご経験あるかたがたとお話ができたと、荻野先生の素晴らしいメッセージ楽しむことができました。Well-being ×日本語の一員として、また明日からつながる形を作っていきたいと思っています。嶋田先生今日はありのままに参加させていただきました。ありがとうございました。</p>

10	<p>荻野さん、小川さん、そしてzoom寺子屋を企画してくださった嶋田先生、ありがとうございました。初めて経験したワールドカフェで、想像していたものとは違った驚きがありました。「well-being×教育」というわたしにとっての新しい視点をいただくことができたことはもちろん、荻野さんのお話と、そして参加者の皆さんとの対話から自分を内省し、多くの気づきがありました。つながりはエンパワメントですね！ 荻野さんとの出会いに感謝です。ありがとうございました。</p>
11	<p>オンラインでのワールドカフェ、興味津々でしたが、想像以上に良かったです。ダイアログも時間が足りないくらいでしたし、もっといろいろな方と話してみたいという思いになりました。ワールドカフェはやってる時は悶々として、後からハッとする気づきがあるのがいいと思っていたのですが、今回は悶々とするのはあまりなかったです。それは荻野先生の大きな愛情のようなものが根底にあったからかもしれません。この先、学習者のみならず、地域に住む外国の皆さんや子どもたちがWell-beingであるように、自分のできることや使命を改めて問うていきたいと思えます。ありがとうございました。</p>
12	<p>とっってもあったかい気持ちで終わった今回の寺子屋は、私の中に心に残る言葉をいっぱい残してくれました。そして、普段、あまり考えたこともない「しあわせ」について考えた時間でもありました。いつも自分が幸せかどうかというのが基準だった気がします。今回の荻野先生のワークショップの先生の個々人に対する反応の優しさが心に残りました。こうやって反応してもらえるというのは、人をとっても幸せな気持ちにするのだなと思いました。私も学生の一人一人の話をちゃんと聞いてあげたら、相手を幸せな気持ちにするかもしれない。相手が私のちょっとした行為で幸せを感じてくれるなら、それは、私にとって幸せなことではないだろうか。素敵なワークショップでした。どうもありがとうございました。</p>
13	<p>優しさとあたたかさでいっぱいの素敵な時間でした。「つながりから生まれるものは何ですか？何を生み出したいですか？」という問いについて、荻野先生のお話やグループセッションを通して、考えるきっかけ、またその答えを探す第一歩になりました。 知る→気づく→変わる、それぞれのタイミングで他者と対話することによって、その気づきや、その後の自分自身の変化に大きな影響があることも体感しました。さらに、人とつながることはとても素晴らしいことで、幸せなことだということも改めて感じることができました。 荻野先生の優しいお話の仕方やお言葉がたくさん心に残っています。自分自身のWell-being、日本語教育とのWell-beingをこれから考えていきたいと思えます。本当にありがとうございました。 嶋田先生、このような機会をつくってくださりまして、ありがとうございました。グループセッションで私の話を傾聴してくださり、ご意見やアドバイスをくださった皆様にも感謝しております。</p>
14	<p>ブレイクアウトを通して新たなつながりができました。日本語教育というテーマでの集まりですが、境遇や取り組みは多様であることを改めて実感しました。日本語学校の事務局はたまたま関わることになった仕事ですが、暫く続けそうな予感がしております。今回のZoom寺子屋でできた新たなつながりによって、その可能性も増した気がします。昨今、日本語学校に通っている留学生は、日本人との交流がそれほど多くはありません。日本語学校でも母国語が通じる職員がいて、アルバイト先でも同様に要求される日本語力は年々小さくなっています。今年、当校では母国語対応の職員の配置をやめました。事務的な話も、初級の学生と日本語で会話することにしました。事務職でも、日本語が下手な学生と上手に話せる日本語力を身に着ける必要があります。これからも寺子屋で勉強させていただき、楽しく仕事をしたいと思えます。</p>
15	<p>嶋田先生、このたびも素敵な企画に参加させていただいて、本当に感謝しております。 これまで日本語教育とWell-being、それぞれで追求してきたものが一緒に追求していけばいいんだと背中を押してもらえた機会となりました。</p> <p>今日あったいいことを3つ書き出すというワークはこれまで朝行っていたのですが、夜行ったところ、翌朝とても幸せな気持ちで起床できました。これを授業に取り入れて、学生たちにも今ある幸せに気づく喜びを伝えていければ、マインドが整い、自ら学ぼうとする力も強まるのではないかとワクワクしています。</p> <p>また、この寺小屋で昔の同僚と再会でき、ブレイクアウトセッションでもお話しできたという不思議なご縁からメールのやりとりが始まったこともとても嬉しく思っています。まさに嶋田先生のご縁つなぎのお陰です。</p> <p>最後に、荻原先生が作ってくださったFacebookグループで、「日本語教育 x Well-being」に無限の可能性を感じている一人として、あの時間を共有できた方々と今後もまたつながって行けることに喜びを感じています。今後ともよろしく願いいたします。</p>

16	<p>今回の寺子屋に参加するまでは、Well-beingということば、実はどこかで聞いたことがあるなあ、という程度しかわかっていませんでした。参加させていただいて、ああ、そうなんだ、と急に身近な概念になりました。辞書で調べるより何より体験をとおして出会えた気がいたします。</p> <p>講師の荻野先生の笑顔とやさしい声に、そして参加した先生方の明るい笑顔に触れて、暖かい、やさしい時間を過ごさせていただきました。</p> <p>そんな中での「学び」は普段とはまったく違った、自然な学びだったと感じています。担当している教室の中を、ぜひ今日のような暖かい場にしていきたいと思いました。</p> <p>幸せの4つの因子、①やってみよう、②ありのまま、③ありがとう、④なんとかなる、は具体的で分かり易かったです。</p> <p>どんなつらい時でも、この四つを実践していったら、きっと幸せな時が訪れると感じます。具体的なことも教えていただきました。その日にあった良かったこと、寝る前に思い出すだけでも、幸せ度が何倍にもなりそうです。友人や、同僚や学生たちにもつなげていきたいとおもっています。</p> <p>荻野先生のおことばで、いちばん心に残ったのは、「大切な方を今、大切になさってください。」ということばでした。</p> <p>日々の忙しさに紛れて、気をつけていないと案外できないことだと改めて思った言葉です。（実は、以前の自分がそうでした。当たり前だと思っている日々の幸せがふいに失われたとき、それまで、どんなに幸せだったかにやっと気づきました。）</p> <p>「ポジティブ心理学」という心理学は、初めて知りました。今、心理と教育コースを履修していますが、深めていきたいと思いました。</p> <p>今回、参加させていただいて、新たな「つながり」を得ました。すてきな素敵なつながりです。機会を下さった嶋田先生、講師の荻野先生、応援の小川先生、そしてご一緒させていただいたすべての方に感謝しております。</p>
17	<p>荻野先生、貴重なお話をありがとうございました。</p> <p>日本語教育を超えたwellbeingのお話を伺うことができるとは思っていませんでした。つながりのその先にどのような幸せがあるのか、学生達が見つけられるような授業をしたいと思えます。</p> <p>ニュージーランドは冬とのことですが、お体ご自愛下さいませ。</p> <p>嶋田先生 小川先生 お忙しい中、ホスト等ありがとうございました。 また、卒がががあればぜひ参加致します。 何卒宜しくお願い致します。</p>

18	<p>第4回zoom寺子屋に参加し、実に多くのことを学んだ。荻野先生からは示唆に富む3つの話を伺い、グループでは参加者とのやり取りで新たな視点を得た。ワールドカフェを通して人生を振り返り、明日へのビジョンが持てた濃密な時間であった。</p> <p>荻野先生のお話の1つ目はニュージーランドの教育制度と幸福度の話。そこには年齢や入試制度に縛られず、多様な学びが保証された環境で自律的に学ぶ人々の幸せそうな姿があった。やり直しがきく、ゆるやかで多様性のある社会を垣間見て、人生を豊かに生きるヒントを得た思いだった。</p> <p>2つ目は日本語学習者が減少する中、荻野先生が越境でつながる学びの仕掛けを作った話。大学と高校がつながるダンスプロジェクトから生まれたものは、人々の笑顔と幸福感に満ちたコミュニティであったことに感動した。他者とのつながりから生まれる広がりは無限であると感じ、わくわく感が止まらなかった。</p> <p>最後は日本語教育から生まれるWell-beingについて。前野隆司氏の「ポジティブ心理学」から、幸せの4因子を満たすことで幸福になれるという幸せのメカニズムをご紹介いただいた。グリーフ（Grief）から立ち直るレジリエンスの力についても言及され、実に興味深かった。このポジティブ心理学を日本語教育に応用することで、日本語教育でつながった教師や学習者がよりエンパワメントできる実践とは...?と考え始めたとき、ふと気づいたことがある。</p> <p>それは、今回のzoom寺子屋こそが、その実践ではないのだろうかということだ。嶋田先生は当日までに参加者の自己紹介と寺子屋へ期待することをシートにまとめ参加者に共有してくださった。また、その参加者一人一人に寄り添った暖かいコメントを荻野先生がくださっていた。私は当日を迎えるまでに嶋田先生と荻野先生への感謝の気持ちでいっぱいであったし、参加者同士のつながりに喜びも感じていた。また、荻野先生から事前課題としていただいていたワーク（幸せの4因子を記入する）シートを書くことで、自分らしく生きることや自己実現へ向けての意識も高まっていた。今回のテーマ「つながりと越境」、そして「Well-being×日本語教育」が理解できるだろうかという一抹の不安もあったが、とにかく参加したいという気持ちになっていた。こうしたことから、幸せの4因子を満たす試みは既に準備段階から始まっていたのだと思い至った。</p> <p>参加者の多くが「幸せな時間だった」「温かい空気に包まれていた」といった感想を口々に漏らしていた今回のzoom寺子屋、参加できた幸運な一人として、今回の学びをこれからの日本語教育の実践にぜひとも生かしたいと思った。</p>
19	<p>教師は、いい授業をしなければということを考えがちですが、それ以前に自分自身が幸せでないといけないということに気づかされました。教師が幸せであれば、それが学習者にも伝わってお互いが幸せになれるですね。</p> <p>楽しい時間をありがとうございました。</p>
20	<p>様々な地域から、様々なバックグラウンドを持つ先生方と、オンラインだからこそ繋がれて、いろいろなお話が聞けて非常に充実した時間でした。初参加でしたが、Zoom寺子屋当日を迎える前から、嶋田先生からのメール連絡や、参加者が自己紹介を書き込み、そこに荻野先生からコメントをいただいたりして、一体感を感じることができました。</p> <p>今回のテーマに、well-beingがあったのですが、まさに幸せだと感じられる時間でした。ありがとうございました。</p>
21	<p>今まで考えたり感じたりしてきた様々なことを「越境とつながり」という一つのテーマに照らし合わせながら自分の中でまとめ上げていく機会となりました。世界の国々に目を向けて、学びの多様性を再認識し、問題意識を新たに持つことができました。Break out sessionを通して参加者の皆さんと対話することで、テーマについて自分の確かな思いをアウトプットすることができたと思います。その気づきは、つながりから生まれる「思いがけない可能性と希望」であり、「新しい創造的な価値観」、「コミュニティ」です。それらを希求する思いが、自分一人の頭の中で渦巻いていたとしても、具体的な動きとして創出できるかできないかは「越境とつながり」の場を持てるか持たないかに左右されるのだという強い実感があります。今後の指針としていきたいと思います。</p>
22	<p>とても温かな、そして1人1人が自分と向き合い・つながり、そのことで他者とより深くつながった、そんな場でした。自分の幸せに気づき、大切にできることが、他者の幸せに気づき、その幸せを大切にできることにつながる、ということ強く感じました。</p>
23	<p>今回のテーマ「日本語教育 x well-being」について幸福の4つの因子を満たす教育というのは私の目指すところでは、楽しくリラックスした状態で学ぶということを常に考えて授業をデザインしています。インプロやゲーム的な要素を取り入れて授業を行っています。学生、参加者の楽しそうな顔と笑い声が生まれる雰囲気づくりに、well-beingの幸福の4つの因子は重要でこれからはより意識して授業デザインを考えていこうと思いました。私の目指していたものに触れられたワークショップでした。ありがとうございました。</p>